

令和5年(2023年)2月9日(木)

教育センター 教科教育室

令和4年度(2022年度)第2回 豊中市社会教育委員会議

次第

1. 開 会

2. 案 件

(1) 豊中市の社会教育のあり方の検討について

(2) その他

【資料】

別紙1 豊中市社会教育委員名簿

資料1 豊中市の社会教育のあり方の検討について(案)

資料2 豊中市の社会教育のあり方の検討について【概要版】(案)

豊中市社会教育委員名簿

令和4年(2022年)7月1日現在

氏名	区分	任期	所属団体等
有元 祐子	学校教育関係者	令和4.7.1 ～令和5.6.30	小学校校長
中川 博史	社会教育関係者	令和3.7.1 ～令和5.6.30	公民分館顧問
井川 恭子	社会教育関係者	令和4.7.1 ～令和6.6.30	地域教育協議会会長
秋山 京子	家庭教育の向上に 資する活動の関係 者	令和3.7.1 ～令和5.6.30	民生・児童委員 学校支援コーディネーター
寺嶋 繁典	学識経験者	令和3.7.1 ～令和5.6.30	大学院教授
濱元 伸彦	学識経験者	令和4.7.1 ～令和6.6.30	大学准教授
佐藤 千佳	社会福祉関係者	令和4.7.1 ～令和6.6.30	豊中市社会福祉協議会

豊中市の社会教育のあり方の検討について（案）

令和5年（2023年）2月9日時点

※赤字下線は11月実施の社会教育委員会議の意見等を踏まえ反映した部分

※赤字黄色ベタは、公運審・庁内協議後変更

※赤字青色ベタは、1月教育委員会議後変更

豊中市の社会教育行政は、これまで図書館・公民館などの社会教育を担う担当行政機関が、めざすべき目標を各々掲げ、それぞれで取組みを進めてきましたが、市全体として社会教育のあり方を共有し、市民の皆さんとともに具体的な目標に対して施策を推進することで、一層、その取組みが有意義になると考えます。

そこで今回、個々の取組みを社会教育という共通の観点から捉えなおすこととしました。

そして、本市の教育行政の方向性を明らかにした教育振興計画の中にある、社会教育の進むべき方向性を、このあり方検討の中で可視化、具体化し、進行管理を教育行政方針の中で着実に進めていくため、ここに豊中市の社会教育のあり方を検討するものです。

0. 社会教育とは

一般的に社会教育という言葉は、学校教育以外の教育活動の全てを示すことが多いのですが、ここでは、教育行政機関（教育委員会事務局）が取り組んでいる施策事業を中心に検討することとします。

幅広い社会教育という概念の中でも、教育行政が担っている社会教育を主たる目的とする事業を中心に、これまでの経過と現状を俯瞰し、課題を明らかにするとともに、これからの豊中市の社会教育のあり方と方向性を検討していきます。

ただし、教育行政機関は、市民の視点で社会教育を進めるにあたり、社会体育、文化振興、地域コミュニティ、人権政策、男女共同参画、国際交流、福祉といった他の行政機関がそれぞれに取り組む講座などの学習活動全てを社会教育と捉え、ネットワーク型行政としてこれらをも含めて考え、積極的に連携していく必要があります。

1. 市社会教育の現状と課題

（経過と現状）

- (1) 豊中市では戦後の民主教育の創成期から社会教育が盛んで、現在まで活発な活動が見受けられる。特に「公民分館」活動を始めとする地域活動など、先人たちが築き上げてきた歴史がある。
- (2) 公民分館活動などの社会教育をきっかけとして有為な人材が地域活動を支えてきた。
- (3) 公民館、図書館など、生涯学習関連施設が市内に一定箇所存在し、市民の社会教育の場が確保されている。
- (4) 担い手の多くは、楽しんで活動している。使命感もあるが、活動すること自体に生きがいややりがいを感じている。日々新しい喜びがあり、忙しいと

¹ 公民分館：教育的、自治的、福祉的活動の中核として、地域に根ざした市民の身近な社会教育機関として豊中市では小学校区に1分館設置されています。

- は思わないケースも多い。
- (5) どの活動も担い手の後継者不足を感じている。
 - (6) 人生100年時代において、健康寿命の大切さがうたわれ、働き続ける高齢者が増えている。
 - (7) 時代とともに社会課題が変化しているように、家族のあり方、子どもたちの行動様式も変化している。
 - (8) 一方で多様性教育が進み、人生に自由な選択肢が増えている側面がある。
 - (9) 地域の大人が地域の子どもに接する機会や、接すること自体が難しくなっている。
 - (10) 核家族化などの影響により、地域の祭りなど通過儀礼に根差した地域への関わり等が10代後半から20代後半にかけて薄くなっている。
 - (11) 自治会への加入率の低下に歯止めがかからない。
 - (12) 令和元年度（2019年度）から始まった、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域活動の多くが2年以上にわたり活動停止や対面での取組みの自粛を余儀なくされた。

(課題)

- (1) 現在では、PTA活動への否定的な意見に代表されるように、地域活動への参加に消極的な人が増え、人権教育推進などの社会教育活動に取り組むきっかけとなる活動への参加者、さらには地域活動そのものの後継者が減少している。
- (2) 少子高齢化が進む中、地域の祭り、伝統行事等において親子で参加し、地域への愛着を育む機会が減ってきている。
- (3) 共働き家庭の増加、定年延長など、地域活動を行う時間的経済的ゆとりのない家庭が増えている。
- (4) 歴史の長い地域活動の中には、男女共同参画が進んでいないものも残っている。
- (5) 戦後すぐの貧困の中でも活発に取り組まれた社会教育活動と、現在の地域活動への参加者の減少との違いは何か。忙しさ以外の参加意識の低下に対する対策が必要ではないか。
- (6) 生きづらさを感じる人が顕在化し、学校や職場、家庭以外の地域の受け皿が必要になっている。

(方向性)

- (1) 地域参画の根幹を支える人材育成や、地域活動への参画のきっかけとしての社会教育の意義は引き続き重要である。
- (2) 生まれた地域に戻り、地域のために貢献したいと感じる思いを育む。
- (3) 生まれてきたときから大人になるまでの継続的な視点を大事にする。
- (4) 個々に取り組まれてきた活動を、点と点から連携することで豊中市という地域社会全体に還元する。
- (5) 学校教育に地域が関わることが、子どもの成長過程で安定感・安心感に寄与し、大人になってからの社会教育活動へつながっていく。
- (6) 個々の実践からの学びの共有、活動の視野を広げる。
- (7) 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染対策の観点から、対面以外のSNSやインターネットも活用しながら取り組んでいく。

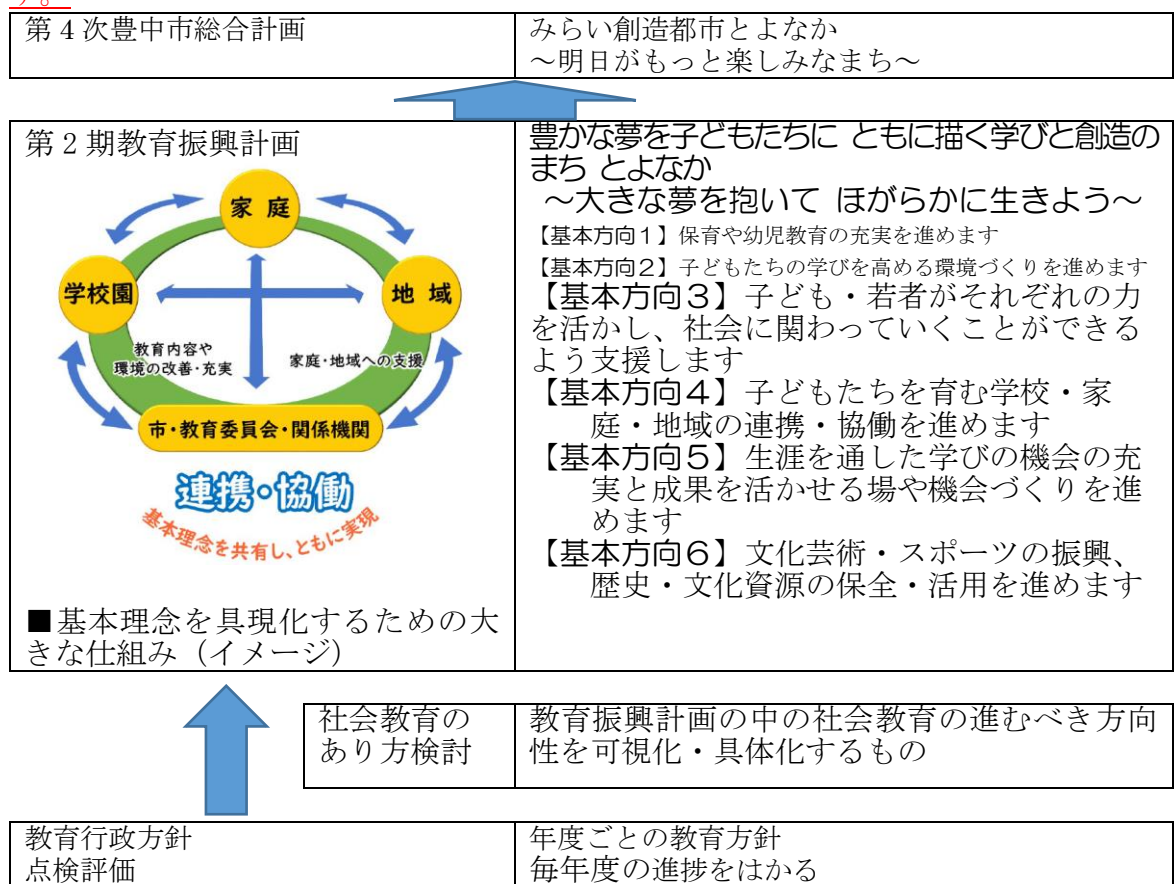
- (8) 働きながら取り組める「チョボラ²」などを参考に、短い時間で気軽に取
り組める社会教育の形を考える。
- (9) 個別で取り組まれてきた活動を元に、市全体としての社会教育のあり方を
考える必要がある。

(まとめ)

- (1) 人は自らの探求心に従い学び続けることができる。豊中市の社会教育は、
その学びを支援することで人生100年時代を支える一助となる。
- (2) 社会教育に取り組むことは、自分のためであるが、結果的に人のためにつ
ながる。人のための活動もまた、自らの幸福追求につながる。
- (3) 実践してきた社会教育の良い点を残しつつ、さらに今の時代に見合ったよ
り良い地域にしていくために、点と点の活動を結び、新しい「豊中の社会教
育のあり方」を今ここで考える。

2. 施策の推進と進行管理について

社会教育のあり方を検討するにあたっては、この検討結果が総合計画や教育振興
計画の具体化に寄与するものとなるよう、以下のように進行管理の形を整理しま
す。



² チョボラ：ちょっとしたボランティアの意。短時間でもいいから気軽にボランティアを始めて
みようということ。

3. 本市社会教育のめざすべき方向性

■基本コンセプト

キャッチフレーズ（案）

案1 人づくり地域づくり ～つながり、暮らしを豊かに

案2 ひとをつくる、地域をつくる、第一歩

案3 人と人とのつながりで人の輪ができ、和になり、循環（まわ）る

案4 豊か³ん中（ゆたか³ーんちゅ）³の輪を広げ、学び・育ち・生きるまち

豊中市における社会教育とは、人づくりであり、地域づくりの根幹を支える人材育成と位置づけ、施策を進めていく。

- ・ 個人の幸福の追求が地域満足度の上昇への道筋となる。
- ・ 学校教育と社会教育は車の両輪であり「子どもを育てる」学校教育と連携して「家庭教育・社会教育」を進め、子どもから大人まで途切れのない地域学習を構築していく。
- ・ 知と人をつなげる。人と人、地域や組織がつながる。過去と今、そして未来をつなぐ。つながることで新しい可能性をひらき、暮らしをより豊かにする。
- ・ **社会教育機関が相互に連携することで相乗効果を高め、生涯を通しての学びの場となり、地域活動の活性化やまちづくりに資する役割を担う。**

■方針

- (1) **社会教育が市民にとって身近なものであるよう、講座への参加など、市民自らの学びの支援・充実を図り、社会での居場所の選択肢を増やす。**
- (2) **誰一人取り残さない、包摂⁴的な社会教育の機会の提供をめざす。**
- (3) 学校教育と連携を図り、子どもを育てる保護者・子どもを見守る地域の学びを通して、学びの循環を創出する。
- (4) **地球規模で考え、地域で行動する (think globally, act locally) 土壌をつくる。**
- (5) 地域への循環を生む生涯を通じた途切れのない学びと活動の場の提供。
- (6) 個人の生涯学習から地域社会への参画への流れを生むアプローチ
- (7) 公民館、図書館、郷土資料館等の社会教育行政機関が**相互に連携してよりよい**学びの機会を提供する。
- (8) 高校連携・大学連携により、社会に出る前から地域活動の循環の輪（学び→地域への参画→さらに学びへと繰り返すこと）に加わる機会を提供する。
- (9) **防災教育をはじめとした危機管理、社会体育、文化振興、地域コミュニティ、人権政策、男女共同参画、国際交流、福祉**など各分野の行政機関と連携を図り、新たな行政諸課題についても社会教育団体や施設などの資源を活用して解決に向けた取組みを展開していく。

³ ユタカーンチュ：沖縄県民を示す「ウチナーンチュ」に因み、豊中市民のことを示す造語、ほかに豊人（とよんちゅ）などの造語も存在する。

⁴ 包摂：全てを包み込む、インクルーシブ（包み込む）

4. めざすべき方向性実現のための本市社会教育部門、企業、教育機関、NPO、社会教育団体などに期待される役割、取組み

これまで整理してきた課題やまとめをふまえ、これからの豊中市の社会教育の方向性の実現に向けて、それぞれの役割を整理し、イメージ図に示しました。



ⁱ 地域教育協議会：学校・家庭・地域の三者による相互連携の充実を図り、学校教育や地域における諸活動の活性化、豊かな人間関係づくりを通じた子どもの「生きる力」の育みを目的とします。小中学校・幼稚園・保育所関係者やPTA、公民分館、青少年育成団体などの地域諸団体で構成される地域教育協議会を中学校区単位で設置し、地域コミュニティ紙の発行やフェスティバル、講演会などを実施します。

ⁱⁱ 学校地域連携ステーション：各学校に学校と地域を結ぶ橋渡し役として学校支援コーディネーターを配置し、学校のニーズに応じて、学校支援コーディネーターが事業を企画し、地域住民や学生ボランティアが学校を支援します。（国名称：学校支援地域本部）

ⁱⁱⁱ 家庭教育支援事業：将来親世代となる若い世代や保護者を対象に、ワークショップを通じて、命の大切さや親になる気持ち、親子のコミュニケーションのあり方を考える親学習や、子育てに関する講座等を実施するなど、参加者同士の情報交換や学びあいの機会の提供、情報発信・啓発等を行います。

(教育委員会社会教育部門)

○社会教育課の役割

- ・社会教育のコーディネーターとして、他市事例なども含め情報の集約と拡散を行う。
- ・市民の学びごと相談の窓口として関係機関につないでいく。
- ・新たな課題について、公民館をはじめとする関連機関等と協働して事業を展開する。
- ・人材育成プログラムの試行 (地域の催しへの参加～参画へのプロセス研究)
- ・社会教育主事を配置し、社会教育士の育成支援などを通じて、官民の社会教育をコーディネートしていく。

=★学びのトビラ（入口・ゲート）になる⇒ま（学）ナビゲートします。

=★学びをナビゲーション⇒ま（学）ナビゲーションします（ゴールはない）

○図書館の役割

- ・ 誰もが資料や情報にアクセスできる環境やメディアリテラシーの向上にむけた環境を整え、情報格差を解消し、生涯を通じた学びを支援する。
- ・ 子どもから大人まで、また高齢者や障害者等、すべての市民がより豊かで潤いのある文化的な生活を営むため、また日常生活や仕事における様々な課題を解決するために必要な情報や知識、場を提供する。
- ・ 他の図書館・公民館などの関連機関と連携・協力し、地域・市民との協働を進めながら。市民の高度で幅広いニーズにこたえ、コミュニティの活性化、地域づくりに貢献する。

=★つながる。わたしの図書館で。

○公民館の役割

- ・生涯学習の場として、地域団体、学校、図書館などの各行政機関等と連携しながら、現代的課題や社会課題を取り上げる、地域の魅力を発信する公民館講座を実施する。
- ・公民館活動の支援、地域の人材のマッチング、地域と連携した公民館事業等の実施を通じ、住民が互いに学び合い協力し合う地域づくりに貢献する。
- ・様々な学習意欲をもった市民が利用しやすいよう設備等を整備し施設を提供することで、地域住民の自主的な生涯学習活動を支援する。
- ・公民館登録グループ継続的学習活動の機会を提供することで、学習活動の成果を地域に還元し、学びの循環をつくる。

=★地域とともに 出会う、つながる、学び合う 公民館

○郷土資料館の役割

- ・ 市内の歴史・文化財に関連するあらゆる資料を対象に収集・調査・整理・研究し、その資料の価値を明らかにして公開・発信するための事業を実施していく。
- ・ 館が蓄積した資料を、自らや地域にある様々な課題解決のための素材として活かせるよう、誰もがいつでも親しみ、楽しみ、自由に学び、参画できる場を提供する。
- ・ 生涯を通じて学びがつながるように、役割が重なり合う図書館・公民館・学校などの関連機関と積極的に連携し、幅広い世代が歴史・文化財に少しずつ関わ

りながら、未来を担う子ども達へと継承していけるよう努める。

＝★時の流れを集めて未来へ

○青少年交流文化館いぶきの役割

- ・青少年健全育成を通して、学校・家庭以外の多様な居場所や相談窓口を設ける。
- ・不登校など今日的課題にも対応する青少年施設として、社会生活にさまざまな困難を抱える青少年への支援を進める。
- ・学校教育等と連携を図り、青少年の自主性を助長するとともに、社会的自立を促す取組みを進める。
- ・青少年育成団体の支援を通じて、地域における社会教育活動を促進する。
- ・青少年が社会の中で人とつながり、学び、自立して自らの将来を切り拓いていけるような力を育むため、高校等との連携や若者世代への情報発信を行う。
- ・主催事業などを通して、主体的に生きる力を培い、自尊感情や自己肯定感を高め、交流し学びあう場を提供する。

＝★青少年が集い (or 交流し)、育ち、未来 (or 自立) へとつなぐ「いぶき」

○学び育ち支援課の役割

- ・地域と学校の連携により、様々な学習、体験、交流の機会をつくり、次世代を担う子どもたち（児童、生徒）を心豊かに育む、学校を拠点とした教育コミュニティづくりを進める。
- ・次世代を担う子どもたちの育成、持続可能な地域社会づくりをめざし、家庭教育・子育てに関する講座等の学校・地域への学習機会を提供し、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性の育みにつなげる。
- ・地域と学校を結び、生涯を通じた途切れのない学びの循環の一翼を担う。

＝★世代を超えてつながるふるさとづくり

＝★ともに つながる、学ぶ、そして育つ

(結び)

豊中市の社会教育は、社会体育、文化振興、地域コミュニティ、人権政策、男女共同参画、国際交流、福祉もふくめ、垣根を超えてつながり、市民活動の取組みの中からより多様な社会教育の要素を受け止め、広げていきます。

その実現のため、社会教育行政機関は、各々の関係団体の活動支援に際しては、初期の人材育成から継続的なフォローアップを通じて、変化に柔軟に対応できるような支援のあり方を考え、コーディネートします。

(行政機関)

社会体育、文化振興、コミュニティ政策、人権政策、男女共同参画、国際交流、福祉など、それぞれの課題に取り組む所管部局は、その事業の場として社会教育施設を活用し、講師の派遣や協働事業など、密に連携しながら事業に取り組みます。

教育コミュニティ：教育や子育てに関する課題を学校・家庭・地域で共有し、課題解決に向けた取組みを通じてつくられる、あらたな人のつながり。

(市民)

自らの学びを大切にし、考え続け、学び続けます。考えを深め、広げることで豊中市の社会教育を進めていく原動力となります。

(地域団体・市民団体)

公民分館をはじめとする地域活動団体、市民団体、グループ等は、自分たちが楽しく活動し、社会教育の重要な要素であることを知ること、自ら学んだことを地域に還元し、取組みを進め、新たな人材が参加できるように受容します。そのためにも、それぞれのペースを大切に、取組みを進めていきます。

さらに、地域団体（地縁）から市民団体（テーマ型のつながり）へ活動を広げます。

(企業)

社会教育士の配置や、社員の地域活動を容認する、あるいは企業として行政機関と協働して地域活動を行うことで、社員のモチベーションをあげ、自社の企業立地の特性をつかむことができます。CSRの一環として取り組むことで、企業の地位向上につなげ、行政・地域とウィンウィンの関係を築きます。

(教育機関)

学生たちが地域の人向けに活動することで、学生自身が学ぶ、社会と接する体験のいい機会になります。その成果を、社会教育関係団体との連携、学校教育、地域活動への協力で生かします。また、組織内で、社会教育に関係する取組みを進めるための窓口を設けることで、教育研究機関としての役割に加え、地域に開かれた生涯学習機関としての役割を果たします。

(NPO)

行政と連携し、市民の視点で行政の社会教育活動に関与します。また、行政と協働して市民活動の基盤となります。さらに、新たな人材を受け入れ、他団体と連携したり、地域活動へ参画したりすることで活動の幅を広げます。

これらの役割を、私たち一人ひとりが気づき、できることから行動することで、誰一人取り残さずに、市民が、楽しく、優しく、生きていけるまちになる。

《参考》 ヒアリング結果一覧（予定含む）

（行政機関）

- ・ 図書館
- ・ 公民館
- ・ 郷土資料館
- ・ 学び育ち支援課
- ・ 青少年交流文化館いぶき

（社会教育団体ほか市民）

- ・ 青少年団体連絡協議会（ボーイスカウト豊中協議会、ガールスカウト豊中地区協議会、NPO 法人豊中市青少年野外活動協会、豊中市子ども会連合会等）
- ・ NPO 法人北摂子ども文化協会
- ・ 図書館ボランティアグループ（おはなしポケット）
- ・ 公民分館協議会会長
- ・ 学校支援コーディネーター（箕輪）
- ・ 豊中市人権教育推進委員協議会
- ・ 公民館登録グループ（豊中二胡倶楽部）

（教育機関）

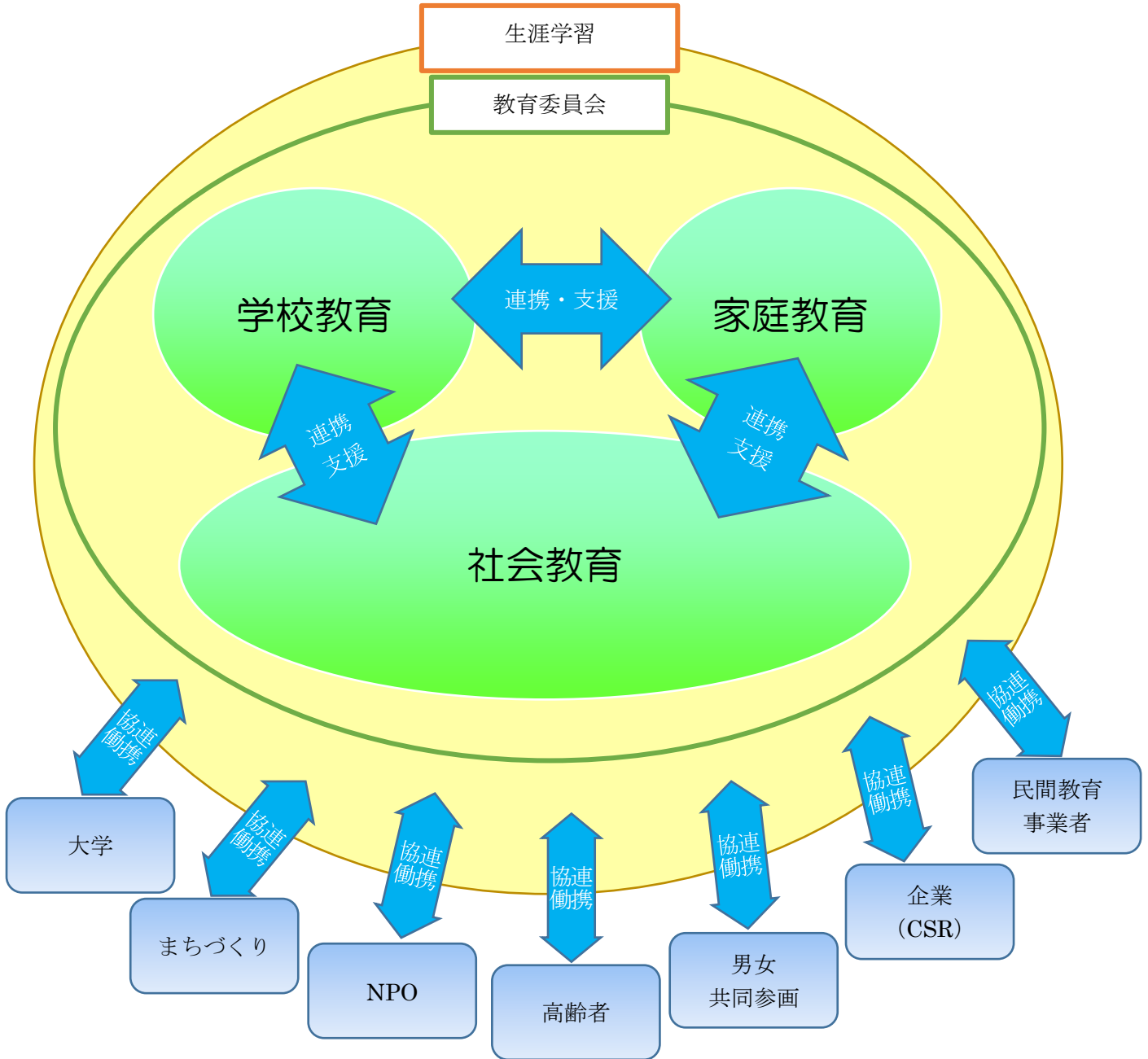
- ・ 大阪音楽大学
- ・ 大阪大学

（企業）

- ・ (株)コタキクリエイティブワークス

《資料》

生涯学習と社会教育の概念図



経過と現状

- (1) 公民分館活動を始めとする地域活動など、先人たちが築き上げてきた歴史がある。
- (2) 公民分館活動などの社会教育をきっかけとして有為な人材が地域活動を支えてきた。
- (3) 社会教育施設の充実 (4) 担い手は、使命感、活動自体に生きがいややりがいを感じている。
- (5) 担い手の後継者不足を感じている。 (6) 働き続ける高齢者が増えている。
- (7) 社会課題が変化。家族のあり方、子どもたちの行動様式も変化。
- (8) 多様性教育が進み、人生に自由な選択肢が増えている。
- (9) 地域の大人が地域の子どものに接する機会や、接すること自体が難しくなっている。
- (10) 地域への関わり等が10代後半から20代後半にかけて薄くなっている。
- (11) 自治会への加入率の低下。
- (12) 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動停止や対面での取組みの自粛を余儀なくされた。

課題

- (1) 地域活動への参加に消極的な人が増え、人権教育推進などの社会教育活動に取り組むきっかけとなる活動への参加者、さらには地域活動そのものの後継者が減少している。
- (2) 地域の祭り、伝統行事等において親子で参加し、地域への愛着を育む機会が減ってきている。
- (3) 共働き家庭の増加、定年延長など、地域活動を行う時間的・経済的ゆとりのない家庭が増えている。
- (4) 歴史の長い地域活動の中には、男女共同参画が進んでいないものも残っている。
- (5) 忙しさ以外の参加意識の低下に対する対策が必要ではないか。
- (6) 生きづらさを感じる人が顕在化し、学校や職場、家庭以外の地域の受け皿が必要になっている。

方向性

- (1) 地域参画の根幹を支える人材育成や、地域活動への参画のきっかけとしての社会教育の意義は引き続き重要である。
- (2) 生まれた地域に戻り、地域のために貢献したいと感じる思いを育む。
- (3) 生まれてきたときから大人になるまでの継続的な視点を大事にする。
- (4) 個々に取り組みされてきた活動を、連携することで豊中市という地域社会全体に還元する。
- (5) 学校教育に地域が関わることが、子どもの成長過程で安定感・安心感に寄与し、大人になってからの社会教育活動へつながっていく。
- (6) 個々の実践からの学びの共有、活動の視野を広げる。
- (7) 感染対策の観点から、対面以外のSNSやインターネットも活用しながら取り組んでいく。
- (8) 短い時間で気軽に取り組める社会教育の形を考える。
- (9) 個別で取り組まれてきた活動を元に、市全体としての社会教育のあり方を考える必要がある。

まとめ

- (1) 豊中市の社会教育は、自ら学び続ける人の学びを支えることで100年時代を支える。
- (2) 社会教育活動は、自分のためだが結果的に人のためになる。人のためでも自分の幸福追求につながる。
- (3) 実践してきた社会教育の良い点を残しつつ、さらに今の時代に見合ったより良い地域にしていこうために、点と点の活動を結び、新しい「豊中の社会教育のあり方」を今ここで考える。

本市社会教育のめざすべき方向性

基本コンセプト

「人づくり地域づくり ~つながり、暮らしを豊かに~」
「ひとをつくる、地域をつくる、第一歩」
「人と人とのつながりで人の輪ができ、和になり、循環(まわる)」
「豊か(ゆたか)ーんちゅ) の輪を広げ、学び・育ち・生きるまち」

豊中市の社会教育は、人づくりであり、地域づくりの根幹を支える人材育成と位置づけ、施策を進めていく。

- ・個人の幸福の追求が地域満足度の上昇への道筋
- ・学校教育と社会教育は車の両輪、大人まで途切れのない地域学習を構築
- ・知と人をつなげる。人と人、地域や組織がつながる。過去と今、そして未来をつなぐ。つながることで新しい可能性をひらき、暮らしをより豊かにする。
- ・社会教育機関の相互連携により生涯学習の場となり、地域活動の活性化やまちづくりに資する。

方針

- (1) 社会教育が市民に身近なものであるよう、学びの場、社会の居場所を増やす。
- (2) 誰一人取り残さない、包摂的社会教育の機会の提供
- (3) 学校教育と連携し、子育て中の保護者・見守る地域の学びを通して、学びの循環を創出する。
- (4) 地球規模で考え、地域で行動 (5) 生涯を通じた途切れのない学びと活動の場の提供。
- (6) 個人の生涯学習から地域社会への参画への流れを生むアプローチ
- (7) 公民館、図書館、郷土資料館等が相互に連携してよりよい学びの機会を提供する。
- (8) 高校連携・大学連携により、社会に出る前から地域活動の循環の輪に加わる機会を提供する。
- (9) 各分野の行政機関と連携を図り、新たな行政課題についても社会教育団体や施設などの資源を活用して解決に向けた取組みを展開していく。

期待される役割、取組み

- 社会教育部門
・社会教育課…社会教育をコーディネート ★学びのトビラ(入口・ゲート)になる⇒(学)ナビゲートします★
・図書館…すべての市民に必要な情報・知識・場を提供し、情報格差を解消する ★つながる。わたしの図書館で、★
・公民館…生涯学習の場を提供、市民の学びを地域づくりへ還元し、学びの循環をつくる
★地域とともに 出会う、つながる、学び合う 公民館★
・郷土資料館…課題解決のヒントを歴史に学び、次世代に継承していく ★時の流れを集めて未来へ★
・青少年交流文化館いぶき…青少年健全育成や不登校支援を通して若者の社会的自立する力を育む
★青少年が集い、育ち、未来へつなぐ「いぶき」★
・まなび育ち支援課…地域と学校連携の支援、教育コミュニティづくりで豊かな人間性を育む
★世代を超えてつながるさどづくり★ともに つながる、学ぶ、そして育つ★
- 市民 自らの学びを大切に、思考を深め、広げる社会教育を進める原動力
- 地域団体・市民団体・企業・教育機関・NPO
・活動を楽しむ、新旧の受容、社会教育士の配置、CSR、地域活動の奨励、地域との連携、等

